

# 北海道浜中町の捕鯨遺跡

宇仁義和

国際捕鯨委員会（IWC）の商業捕鯨モラトリアムを日本政府が受け入れた結果、日本の大型沿岸捕鯨は1988年3月をもって終了した。港の埋立や再開発などで捕鯨基地の遺構が失われるなか、北海道釧路管内にある浜中町霧多布には鯨体を引き上げる斜路（スリップウェイ）が今も残されている。

釧路を含む道東地方は宮城県鮎川とならび、戦後の沿岸捕鯨の中心地だった。霧多布には大正時代末期に東洋捕鯨が進出、戦後は日本水産の事業場として1950年（昭和25）までマッコウクジラを中心に捕鯨を行っていた。その後、撤退した日水に代わり、1954年から日東捕鯨が操業を始める。5代目の場長を務められた佐々木俊六氏によれば、日本水産から事業場を購入したがスリップウェイは形だけという状態。施設はほとんど新たに建設するような形だったという。そして、1960年5月24日、地球の裏側で発生した巨大地震が引き起こしたチリ沖地震津波で浜中町は死者11人、被災家屋500戸以上という惨事となり、捕鯨事業場も大きな被害を受ける。現在も残るスリップウェイは、この津波の後に建設したものということである（1999.12.8聞き取り）。

今年7月、15年ぶりにスリップウェイを訪れた。霧多布の市街地の外れ、崖の下から広がる草原の向こうにそれはあった。礫が目立つコンクリートは亀裂が目立ち、おそらく波で洗われ、できた隙間に水が入り、冬に凍って亀裂を大きくしたのだろう。表面には手で簡単に剥がれてしまう場所も数多く、崩壊寸前といった印象だった。それでも海側の末端はスリップウェイの名前のとおり、斜めに太平洋に没しているのが確認できた。

## 原稿を募集しています

ニューズレターへの投稿をお待ちしています。内容はストランディング対応の体験記や学会報告、水族館や博物館の紹介、旅行記から短報まで、クジラやイルカに関することなら何でもOKです。編集担当まで、まずはメールください。

お知らせ：2015年の研究大会は、あきた白神体験センターを会場として7月4—5日（土・日）に開催します。

18・19

## 入会案内

セト研はクジラに興味のある方なら、どなたでも入会が可能です。自然科学だけでなく、人文科学、社会科学の関心からの入会も歓迎します。入会を希望される方は、入会用紙（ウェブサイトから入手可能）に必要な事項をご記入のうえ事務局に送付し、郵便振替で年会費をお送りください。ニューズレターの原稿も募集しています。年会費：4千円（個人会員）／2千円（学生会員）／千円（家族会員）2万円（団体会員）／1万円（賛助会員1口）  
郵便振替：00730-6-7791 加入者名：日本セトロロジー研究会  
銀行口座：ゆうちょ銀行〇七九店 当座0007791  
口座名義：日本セトロロジー研究会



北海道浜中町霧多布に残る日東捕鯨霧多布事業場のスリップウェイ（2014.7.3撮影）

このスリップウェイは防潮堤の外側にあり、街から見るとはできない。捕鯨事業は1978年に終了し、既にそれから35年以上が経ち、街からは捕鯨の記憶が失われようとしている。15年前には残っていたウインチ台や解剖場も今はなく、捕鯨基地の名残りはスリップウェイだけになってしまった。この遺構も崩壊が続き、近い将来に形を留めなくなることは確実だ。

捕鯨を巡ってはさまざまな意見が飛び交っているが、事実を伝える産業遺産の保存はほとんど行われずにきた。立地条件が保存を困難にしていることは理解できる。しかし、結局はそれを越える文化遺産としての存在価値が共有されていないということだろう。

（うに・よしかず 東京農業大学オホーツクキャンパス）

## インターネットで公開します

セトケンニューズレターの掲載記事をPDFでインターネットで公開します。バックナンバーの記事も順次ウェブページにアップしていきます。これにより世界から記事へのアクセスが可能になります。これを機会にぜひ投稿を。

セトケンニューズレター 33号 2014年11月15日

発行：日本セトロロジー研究会 The Cetology Study Group of Japan  
852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学水産学部  
TEL: 095-819-2811（直通）FAX: 095-819-2799（共用）  
<http://cetology.seesaa.net> cetokenjimu@gmail.com

編集：宇仁義和 unisan@m5.dion.ne.jp

099-2493 網走市八坂196

東京農業大学オホーツクキャンパス

TEL 0152-48-3857（直通）FAX 0152-48-2766（共用）

印刷：（株）大成印刷 093-0005 北海道網走市南5条東2丁目